

産業観光の拠点整備を進める鋳物メーカーの能作（富山県高岡市）は8月、同社として初めて外国人社員を採用した。イタリア出身のマルタ・リナウドさんだ。日本人にない視点を生かし、富山県の伝統工芸などの魅力を発信する。

6カ国語で観光情報発信

能作社員 マルタ・リナウドさん

マルタさんは10月発足し、機能を持つ新工場では壁一面に約250枚のカードをイタリア語、日本語、フランス語、ドイツ語、スペイン語の計6カ国語を駆使し、工場に外国人客が訪れた際の案内役を担う。同社が富山観光のハブ施設を目指して2017年4月に開設する新工場のコンテンツづくりにも取り組む。

例えば「観光カード」の作成。体験工房や同社製の電器を使うカフェの



富山の魅力 カード250枚に

翌年には富山大学に留学。人文学部のゼミで祭りを研究し、獅子舞についての卒業論文を書いた。「イタリアによくある」セラミックやガラスではなく、金属を使ったおしゃれなインテリアは見たことがない」と伝統工芸に興味を持ち、能作への入社を決めた。

曲がる食器などが有名な能作だが、一番好きな商品は必ず製の置物「てのりごちさん」だ。手に載せて瞑想（めいそう）するというミニアタックな商品。旅行に持って行き、一緒に写真を撮っているという。

富山の魅力を「都会になり自然や文化がたくさんあって日本っぽいところ」と話す。黒部峡谷のトロッコ電車や瑞龍寺、氷見市から見える海越しの立山連峰がお気に入り。「山に囲まれている故郷のトリノと似ており、落ち着く」と笑う。

新工場では年2万人の来場を見込む。「海外で日本というところと京都、富山のことをもっと知ってほしい」と意気込む。

イタリア出身、24歳